

【ポスターセッション】

当事者が開く福祉（当事者福祉論）の確立に向けてのメタファー分析

－「救う」から「助ける」、そして「支える」、さらに「学びあう」へ－

○ 上智大学 岡 知史（会員番号 248）

キーワード：当事者福祉論、自助グループ、メタファー

1. 研究目的

岡村理論（岡村 1983）によれば、社会福祉の機能の一つに「開発的機能」がある。社会福祉の「当事者」は、かつては対象者と言われたが、いまやサービスの消費者としてその利用を権利として要求する者となった。そして今後は、当事者とその自助グループは、既存の福祉サービスの補完的な働きだけではなく、新しい福祉を創りだしていく「開発的機能」をも自発的社会福祉の一部として担っていくと思われる。このように社会福祉学のなかでも注目されている当事者であるが、西村(2012)のいうように、社会福祉学の議論のなかでは「援助者と当事者の関係性については、ほとんど言及されてこなかった」。その関係性を、メタファーを用いて考察することが本研究の目的である。メタファーはソーシャルワークにおける対象の理解でもすでに用いられているが（O'Brien 2009）、ここでは、社会福祉の援助観の変遷をメタファー的に振り返ったうえで、「新しい当事者」と向かい合うための新しいメタファーについて検討したい。そして当事者の福祉開発を支援する「当事者福祉論」（岡 2012）の立場からは、どのようなレトリックあるいはメタファーが望ましいのかを提言したい。

2. 研究の視点および方法

社会福祉は当事者との関係をどのようなメタファーでとらえようとしていたのか。認知メタファー理論（鍋島 2011；瀬戸 1995）の方法を用いながら、戦前から戦後にかけて社会事業・社会福祉で用いられたメタファーを点検する。そして現代のメタファーを探るために、当事者が開く社会福祉の事例として自死遺族の自助グループの活動を取りあげ、自死遺族およびその支援に対して使われたメタファーを批判的に吟味する。自死遺族の自助グループに注目した理由は、彼らが非常に専門職の用いるメタファーに懐疑的であったからである。

3. 倫理的配慮

本研究は、自死遺族の自助グループを対象としたフィールドワークを基礎としているが、自死遺族への支援にかかわるレトリックやメタファーを分析の対象としており、いかなる個人情報も含まないよう配慮した。

4. 研究結果

戦前から戦後にかけての社会福祉では、当事者とのかかわりのメタファーは（「救護法」で象徴される）「救う」から「助ける」に変わった。森田(1980)によれば『『助ける』が、自力で事を進めようとする対象に手を貸す行為であったのに対し、『救う』は、対象の意志とは無関係にマイナス状態の領域から引き上げる行為である。マイナス評価の領域から対象が脱出するよう、主体が一方的に判断して手を下す、対象の意志や意図を無視した行為』である。しかし一方「助ける」は「自力のみでは事の成就・進捗に不十分である対象に対し、力を貸し与えてプラス方向へと事が進むよう協力する」（森田 1980）ことであり、自力では不十分であることが強調され、「自立」は難しい。そこで現代の福祉では「自立支援」の用語が多用されるように、自立とつながった「支える」というメタファーが使われている。しかし「支える」は、当事者を下から持ち上げないかぎり下に落ちてしまう弱い状態を前提としたメタファーである。また、比較的新しいメタファーとしてエンパワメントがあるが、Fook(2002)も指摘するように、そこには「力のある者」と「力のない者」との関係が前提にあるという批判もある。「新しい当事者」として最近、日本の社会に登場した自死遺族に注目すると、彼らの自助グループは、専門職の自死遺族へのかかわりの仕方が未だ確立されていないこともあって多種多様なメタファーに囲まれていた。「癒す」「寄り添う」が代表的なものだが、どちらも無力な当事者をイメージしたものであり、福祉を開発していく当事者に対するものではなかった。

5. 考察

「新しい当事者」は、もはや伝統的に社会福祉がかかわってきた「社会的弱者としての当事者」ではない。彼らは、体験に基づいて知識を開発し、情報を発信する新しい社会福祉の開発者である。当事者が大きく変わりつつある現在、ソーシャルワーカーもまた長い歴史のなかで当然視してきた当事者とのかかわりのメタファーを根本的に見直し、「新しいソーシャルワーカー」へと脱皮していく必要がある。たとえば、本来、専門職から独立している自助グループに、一方的に「支援する」とか「育成する」などというメタファーで近づこうとするから衝突が生じる。「救う」から「助ける」、さらに「支える」と社会福祉のメタファーは変遷してきたが、「新しい当事者」の登場を受けて、さらに変わる必要があるだろう。たとえば「学びあう」というのは、どうだろうか。

主な参考・関連文献

Fook, Jan. (2002). *Social work: Critical theory and practice*. London: Sage.

森田良行(1980)『基礎日本語 2』角川書店

岡知史(2012)「当事者論に基づく岡村理論の展開：『当事者福祉論』の成立に向けて」松本英孝・ほか・編『岡村理論の継承と展開：社会福祉原理論』ミネルヴァ書房